



Nelson Freire plays Saint-Saëns, Grieg and Liszt

aud 95.742

EAN: 4022143957429



Record Geijutsu (01.09.2017)

Japanische Rezension siehe PDF!

■ 満津岡信育 (音楽評論)

暖色系のタッチで弾き進めるグリーグに対し、リストは、オクターヴがしなやかに唸りを上げ、グリーグの軽快さも鮮烈だ。この時期には、ブラジル出身の技巧派と目されていたフレイレは、まだ22歳という若さであったが、すでに彼のスタイルが固まりつつあったことが実感できる。

オムニバス

ベルリンでのライヴ録音によるサン＝サーンスの協奏曲は、オケの響きが重い、そのぶん、フレイレの滋味豊かな音色と剛毅なフォルテがいちだんと映えるのが印象的。パツハ風の第1楽章もよいが、歯切れよく奏で上げていく第2楽章や、疾風のように駆け抜ける終楽章が圧巻だ。独奏曲は、1966年の放送用スタジオ録音で、モノラルなのが惜しいが、フレイレは、これがベルリンでのラジオ・デビューだったとの由。

Saint-Saëns / Grieg / Liszt



サン＝サーンス:ピアノ協奏曲第2番;グリーグ:抒情小曲集~孤独なさすらい人,小鳥,羊飼いの少年,リスト:ハンガリー狂詩曲第5&10番,ポロネーズ第2番,ほか

特

ネルソン・フレイレ(p)アダム・フィッシャー指揮
ベルリン放送so(現ベルリン・ドイツso)*
〈録音:1966年6月,86年3月16日(L)〉
[Audite® AU 95.742]